２０１６年度①

民　　法

（全　3　ページ）

注 意 事 項

1．試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2．解答用紙・下書き用紙は、この冊子の中に折り込んであります。
3．解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
4．解答は指定された範囲に記載すること。「書き終わり」をこえて記載した場合は、採点をしないことがあります。
5．試験終了後、問題冊子・下書き用紙は持ち帰りなさい。

民　法①

Ⅰ　下記についてそれぞれ80字以内で説明しなさい。(20点)

(1)　原始的不能

(2)　認知

Ⅱ　次の問題〔1〕・〔2〕のうち、1問を選択して解答しなさい。(100点)

〔1〕　次の事実をふまえた上で、下記の問いに答えなさい。なお（問い1）と（問い2）は、それぞれ独立した問題である。(100点)

時価5000万円ほどの甲土地を所有するAのもとへB大学の地質研究所に勤める研究員であると称するCがやって来て、最近甲土地の近隣の地質を調査したところ有害な物質により土地が広範に汚染されており、甲土地一帯の地価は相当下落するため早く売却した方がよい、Cに売却すれば相当な価格で買い受ける人を見つけ出すことができるので、とりあえずCが買い受けてあげると言った。そこでAは、少しでも損失を避けようとして、2010年6月10日、甲土地をCに4000万円で売却し、直ちにCへの所有権移転登記がなされた。

ところが2011年2月には、甲土地一帯は、D社が運営する大規模ショッピングモールの用地としてDにより買収されることが公表され、また、同時に甲土地一帯が有害な物質により汚染されているという事実もないことが判明し、Aもこれらの情報を直ちに入手した。

答案作成日を現在として、以下の各問に答えなさい。

（問い1）　2011年3月に、Aが甲土地の登記簿を調べてみると、甲土地につき同年2月末に売買を原因としてCからDへの所有権移転登記がなされていることが明らかになった。

Aは、甲土地を何とかして取り戻そうと考えたが、決断ができないまま現在に至ってしまった。Aは、Cの詐欺を理由に甲土地をDから取り戻すことができるか。また、その他の方法によって取り戻すことはできるか。(60点)

（問い２） Ａは、2011年６月10日に、Ｃに対してＣの詐欺を理由にＡＣ間の売買契約の取消しの意思表示をした。しかし、ＡはＣから受け取った4000万円の半分ほどはすでに使ってしまい、Ｃに返済する金銭の調達に手間取り、4000万円の返還と引き替えにＡからＣへの所有権移転登記の抹消登記手続はできないでいた。しかしようやく本年になってＡは4000万円の返還の目処が立った。そこで、ＡはＣに対して甲土地の所有権移転登記の抹消登記手続を求めたところ、甲土地は2012年８月10日にＣからＤへ売買され、ＣからＤへの所有権移転登記がなされていた。ＡはＤに対してＡＣ間の売買契約は2011年６月10日に詐欺を理由に取り消されていると主張して、甲土地をＤから取り戻すことは可能か。(40点)

〔２〕 次の事実をふまえた上で、下記の問いに答えなさい。(100点)

１．Ａは、母親Ｂと父親Ｃと３人暮らしの３歳の男児であったが、天気の好い日はいつも母親のＢに連れられて、近所の児童公園に遊びに来ていた。事故が起こった2014年９月20日も、午後３時ころに母親と一緒に公園にきて、砂場で遊んでいた。
２．その公園では、そこを使う児童に危険なため、球技は禁止されていたが、学校帰りの高校生のＤ、Ｅ、Ｆは、公園内の広場でサッカーに興じていた。
３．３人の高校生の一人であるＤが強く蹴ったボールが目標を大きくそれて、砂場で遊んでいたＡの顔面に当たって、Ａはその場に倒れ、頭を強く打ってしまった。
４．事故に気づいたＢはあわててＡを、近所にあったかかりつけの小児科医院に運び込み、そこで、Ｇ医師の診察を受けた（午後３時半頃)。
５．Ｇ医師は、脳外科については専門でなかったが、Ａの意識が清明であったことから、それほど重大な傷害とは考えず、外傷の治療を行っただけで、レントゲンもとらず、また、Ａを脳の損傷の検査や治療を行うことができる病院に搬送したり、自分の医院の処置室で安静にして様子を見ることもせずに、「何か変わったことがあったら連絡しなさい」という一般的な注意を与えただけで、Ａを自宅に帰らせた（午後４時過ぎ)。
６．Ｂと一緒に帰ったＡは、しばらくは普通にしていたが、午後７時ころに夕食を食べた直後に嘔吐し、その後、痙攣を起こし、やがて意識が不明になり、あわてたＢが救急車を呼び、ＡはＨ救急病院に搬送された（午後８時ころＨ病院の集中治療室に到着)。Ｈ病院では、緊急手術が行われ、その結果、一命はとりとめたが、左半身に重

いマヒが残り、そのマヒは、将来も回復は困難だろうとの診断を受けている。
7．H病院の診断では、ボールが当たって倒れたときに頭を強く打ち、脳内に血腫ができて、それが、時間の経過とともに拡大し、脳を圧迫したために生じた症状であり、事故の直後に脳の検査や手術が可能な病院に搬送され、遅くとも2時間以内に手術を受けておれば、重大な後遺症なく回復した可能性が高いとされている。

（問い1） Aは、ボールを蹴って怪我をさせたDに対し、損害賠償を請求したいと考えている。この請求は認められるか。その場合、重いマヒが残ったことに対しても賠償を請求することができるか。(60点)

（問い2） Aは、G医師に賠償を請求することができるか。(40点)